



福井県社会福祉協議会 アクションレポート

令和5年12月12日 No.11

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 総務企画課
〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22
TEL 0776-24-2339 / FAX 0776-24-8941 / E-mail somu@f-shakyo.or.jp

このアクションレポートは、本会の主な事業等の進捗を定期的にお知らせするために、役員および関係機関向けに発行させていただくものです。

Contents

- ✓ 苦情を活かせばサービスが変わる～苦情解決セミナー～
- ✓ ICTの導入で社協の災害時の対応力向上を目指す
- ✓ 明日のソーシャルワーク人材育成に向けて
本会初めての社会福祉士実習受入れ
- ✓ あなたの力を福祉の現場に！「ちょこっと就労」面談会
- ✓ 次の福祉の10年に向けて決意新たに
～第70回福井県社会福祉大会を開催！～
- ✓ タイ人技能実習生（第4期生）の受入れ

苦情を活かせばサービスが変わる～苦情解決セミナー～

11月7日（火）に「令和5年度福祉サービス苦情解決機能強化セミナー」をオンラインで開催しました。

本セミナーには、県内の福祉サービス事業所の苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者委員など277名が参加しました。

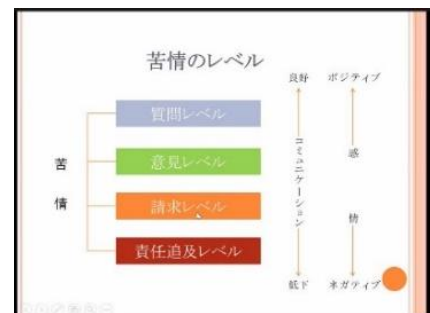
講師に、西南学院大学 教授 倉田 康路氏を招き、苦情申立人の複雑な思いや、苦情が申し立てられる事業者の共通性、苦情をどのようにサービスの質の向上につなげるかなどについて講義いただきました。

また、受講者から報告された苦情対応事例に対する助言もいただき、事業所における今後の苦情対応について大変有意義な研修となりました。

基本目標3
制度の狭間を生まない
包括的支援体制づくり
関連するSDGsゴール



倉田康路（西南学院大学）教授



ICT の導入で社協の災害時の対応力向上を目指す

基本目標 1

社会的孤立を生まない
地域づくり

基本目標 2

地域と福祉を支える
担い手づくり

基本目標 4

新たな課題に取り組む
組織・ネットワークづくり

5つのチャレンジ⑤

災害時福祉救援体制の強化

関連するSDGsゴール



令和5年9月15日（金）、県社会福祉センターにおいて「災害ボランティアセンター運営者研修」を開催しました。市町社協や行政の担当者のほか、各市町の災害ボランティアセンター連絡会の構成団体の方など、約50名が参加しました。

今回の研修では、災害ボランティアセンター（災害VC）の運営において進められているICTの活用について、サイボウズ株式会社 災害支援チームリーダー 柴田哲史氏とオフィス園崎代表の園崎秀治氏（元全国社会福祉協議会職員）を講師にICT化が求められる背景や意義について講義と災害支援システムのデモンストレーションをいただきました。柴田氏からは、現在（令和5年9月時点）の福島県いわき市災害VCでのシステム運用の様子などもご報告いただき、臨場感をもって学ぶことができました。

参加者からは、導入に向けてのコスト面や操作方法等の習熟度向上が課題との意見も聞かれました。現在、県社協では、研修でも活用した

災害VC運営支援システムの半年間無償試用ライセンスを取得し、各市町社協と定期的な勉強会も開催しており、県内社協間での情報共有システムとしての運用も目指して、今後導入を検討していく予定です。



デモンストレーション



会場との質疑応答

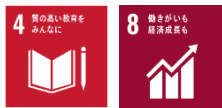
明日のソーシャルワーク人材育成に向けて 本会初の社会福祉士実習受入れ

基本目標 2

地域と福祉を支える
担い手づくり

基本目標 4

新たな課題に取り組む
組織・ネットワークづくり
関連するSDGsゴール



地域共生社会に向けては、複雑な課題でもまるごと受け止められる相談支援体制を作ることや、地域住民が自ら地域の課題を解決していこうとする体制を作ることが求められますが、これらを推進する専門職として社会福祉士の役割が期待されています。

ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士のカリキュラムに関する省令・通知が令和2年3月に示されました。

新しいカリキュラムでは、これまで相談援助実習と呼ばれていたものがソーシャルワーク実習と名を変え、地域におけるソーシャルワーク実践を学ぶということに主眼を置かれたものとなりました。

これに伴い、都道府県社会福祉協議会でもソーシャルワーク実習を受け入れることが可能となり、この秋、本会は福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科3年生の柝倉春汰桜さんを実習生として迎え、合計60時間の実習を実施しました。

県社協の事業は多岐にわたり毎日違う事業に取り組んでいただきましたが、機関誌の企画会議に参加し企画提案するなど、大変意欲的に取り組んでもらいました。

実習受入れの準備として、企画推進チームが中心となり本会が実施する事業をすべて洗い出し、ソーシャルワークのどの要素に当てはまるかを検討し「基本実習プログラム」を策定しました。また、実習指導講習を受けた担当者だけでなく、多くの職員が関わり、県社協全体で実習受入れにあたりました。

実習受入れには大変さもありましたが、職員個人のみならず組織全体のソーシャルワークの振り返りとなりました。明日のソーシャルワーカー育成という組織としての社会的責任を果たすとともに、我々の今後の実践力の向上にもつながるものと期待しています。



実習振り返り

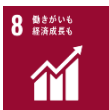


社会福祉大会の準備にも積極的に
あたってもらいました

あなたの力を福祉の現場に！「ちょこっと就労」面談会

基本目標 2
地域と福祉を支える
担い手づくり

関連するSDGsゴール



福井県福祉人材センター・嶺南福祉人材バンク無料職業紹介所では、介護施設などの直接介護以外の食事の配膳や部屋の清掃などの生活に関連した業務を、シニア世代や主婦の方などの空き時間などを活用して働いていただく「ちょこっと就労」の求人事業所との就職面談会を11月上・中旬に県内6会場で開催しました。

これまで福祉の仕事に携わったことのない求職者の方も多く参加があり、具体的な仕事の内容や勤務体系、現在「ちょこっと就労」で働いている方の様子などを施設担当者の方に積極的に質問されていました。

人材不足の福祉の現場において、今後も「ちょこっと就労」の就労者の力が期待されます。

また、障がい福祉分野における導入のため、「ちょこっと就労導入モデル事業」を10月から実施しています。

<ちょこっと就労> 就職面談会参加実績>

参加法人（施設）数	25法人46事業所
参加者数	45名



「ちょこっと就労」就職面談会の様子

次の福祉の10年に向けて決意新たに ～第70回福井県社会福祉大会を開催！～

11月11日（土）、福井県生活学習館（ユウ・アイふくい）にて、第70回福井県社会福祉大会を開催し、被表彰者、来賓、一般参加者等計約480人の方にご参加いただきました。

社会福祉の様々な分野で長年福祉向上に寄与された282人と18団体の方々に表彰が行われました。今年は70回を記念し、継続的に社会福祉活動に協力・援助された個人、企業等に特別表彰が授与されました。また、大会宣言が採択され、安心して暮らせる地域社会の実現のため関係者が一丸となって取り組んでいく決意が示されました。

基本目標 1

社会的孤立を生まない
地域づくり

基本目標 4

新たな課題に取り組む
組織・ネットワークづくり

5つのチャレンジ①

子どもの貧困・貧困の連鎖
をなくすための取組み強化

関連するSDGsゴール



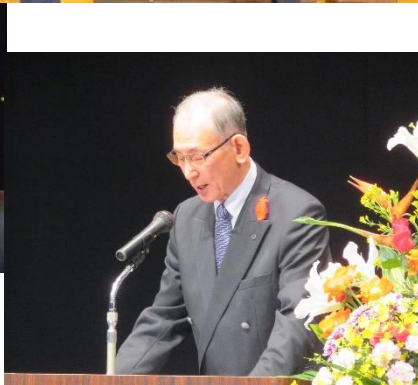
式典後の記念講演では、教育評論家 尾木ママこと尾木直樹氏から、「子どもと大人のパートナーシップ時代～子ども参加の地域づくり～」をテーマにご講演いただきました。ポストコロナ時代にすべての子どもたちが生き生きと活躍できる社会の実現に向け何が大切か、会場の参加者とともに考え、時に笑いを誘いながらもこれまでの教育現場での経験を踏まえた重要な視点をお話いただきました。



大会式典（表彰式）の様子



講演する尾木氏



大会宣言案を読み上げる伊藤副会長



こども食堂・児童養護施設の子どものメッセージを集めた企画展示

第 70 回福井県社会福祉大会 大会宣言

本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えた今日、地域社会の担い手不足などにより、家族や地域における支え合い機能の低下が急速に進んでいます。

さらに、ここ数年我々の生活に大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症は、人々の交流の機会を奪い、社会的孤立や生活困難世帯の増加など様々な福祉課題を生み出しています。

また、度重なる自然災害への不安から「支え合い」の重要性が再認識される中、情報通信技術（ICT）の急速な進展で新たな「つながり」の形が生まれ、社会の基盤も大きく変わろうとしています。

第 70 回の記念大会を機に、福祉関係者と県民が一丸となって 地域の福祉課題をまるごと受け止め、解決に向けて協働する社会、一人ひとりが互いを認め、尊重する社会づくりを加速させ、すべての県民が安心して暮らせる持続可能な地域社会の実現をめざし、その決意を次のとおり宣言します。

- 一 私たちは、すべての県民が地域の課題に目を向け、我が事として関わることのできる【まちづくり】に貢献します。
- 一 私たちは、福祉の魅力や価値を高め、地域と福祉を支える【担い手づくり】に貢献します。
- 一 私たちは、既存の制度では対応しにくい生活課題に向き合い、つながりの力を活かして、支え合う【仕組みづくり】に貢献します。

令和5年11月11日

第70回福井県社会福祉大会

タイ人技能実習生（第4期生）の受入れ

基本目標 2
地域と福祉を支える
担い手づくり

5つのチャレンジ③
福祉・介護で働く在日
外国人への支援

関連するSDGsゴール



タイからの介護技能実習生の受入れ事業について、令和5年12月4日（月）、第4期生6名が入国しました。

実習生たちは、福井県社会福祉協議会にて約1か月間の入国後講習（日本語、介護、生活指導等）を受講し、令和6年1月中旬から県内介護施設で実習を開始する予定となっています。

令和4年4月に第1期生が入国して以降、これまでに、27名（第4期生含む）が入国し、県内12施設で実習を行っています。受入れ施設について、新規での受入れのほか、2回目の受入れとなる施設が出てきました。

受入れ施設からは「実習生は熱心に介護実習に取り組んでおり、利用者や職員からの信頼も厚い」との高い評価を得ています。

引き続き、春と秋の年2回の受入れを進めていきます。次回の第5期生は令和6年春の入国を予定しています。



入国後講習開講式(12月5日)